



編集・発行

2008年11月号

No.401

カトリック幟町教会 (宣教企画部 広報係)

〒730-0016

広島市中区幟町4番42号

TEL (082)221-0621

FAX (082)221-8486

<http://www.nobori-cho-catholic.com>

主任司祭：後藤正史神父

協力司祭：アルベルト神父

殉教のすすめ

福音を宣べ伝え、証しする

シメオン 後藤正史 神父

使徒的勧告『福音宣教』の中で、昨年(2007年)から日本のカトリック教会は「188 殉教者」の証の跡をたどり、今年(2008年)6月末からは全世界の教会と共に熱い宣教者パウロに学ぶ一年を過ごしています。

このところ、日本のカトリック教会では殉教、列福という言葉がかけめぐっています。殉教と聞くと、まず第一に思い浮かべるのは「痛い思いをして死ぬ」ということでしょう。そんなこと、わたしにはできない。きっと選ばれた人が殉教できるんだ。そんな英雄的な死に方をした人をあがめてまつろう。というのでは、殉教者列福運動は単なる一過性のキャンペーンに過ぎないものとなります。

わたしたちは今きっと社会や世界のあり方が大幅に変転している時代に生きています。わたしたちは戦争にあけくれた20世紀から希望に胸をふくらませ、新世紀を迎えて早くも8年。しかし、わたしたち人間社会、人類社会をむしばむ二大要素、お金(マンモン、金銭第一主義、マネーゲーム)と武力(軍事力、パワーゲーム)の増長はとどまることをしりません。格差社会となり果てた日本、マネーゲームでもみくちやにされた世界の中で多くの人々が苦しみあえいでいます。かけがえのない命が後回しにされ、共にいのちを生きる喜びを分かち合っていたいと思いつつも、わたしたちの間のきずなはどんどん細くなり、あるいはプツ

ン切れたりもします。生命という観点から見ると、命の尊厳とは真反対の方向、命への攻撃に矢印が向かっています。他者への共感どころか無関心であるばかりでなく、平気で人を踏みつけたり、傷つけたりもします。あるいは自分の命を自ら絶つ人が毎日百人近くにもなって十年にもなるこの日本。

日本のカトリック教会は、闇夜を照らす灯台のように、今、力をふりしぼって、一条の光をわたしたち日本社会に注ぎ込もうとしています。それが188殉教者列福運動にほかなりません。神様からいただいた命、生涯をどのように生きていくのか、意識するしないにせよ、わたしたちは一人ひとり問われています。殉教者たちはわたしたちに死に方ではなく、さわやかな生き方をはっきりと示してくださいました。(わたしに与えられた)命をかけて(神との喜びの中に生きる朽ちることのない)いのちを生きることがこの袋小路(ふくろこうじ)状態から抜け出し、互いのきずなを深める一つの道だと。わたしたち教会はまさに福音をのべ伝えるために存在しているのですから(パウロ六世『福音宣教』14)。

わたしたちは《信仰によって働き、愛のために労苦し、また、わたしたちの主イエス・キリストに対する希望を持って忍耐して》(Iテサロニケ1:)共に支え合いながら、いのちの道を歩んでいきましょう。

列福される殉教者ゆかりの地 米沢・東京巡礼記

広島地区女性連合会



9月29日、一行20名は、新幹線にて米沢に到着後、北山原殉教地の大きな十字架上のイ

エスキリストと両側に佇む聖母マリアと使徒ヨハネの前で、1629年1月12日殉教した53名について信徒の方から説明をお聞きした。

雪に覆われた北山原で43名、糠山で7名、花沢村で3名が殉教した。当時米沢藩にはおよそ3千人の信者が居たことが藩の記録にある。1614年以後、数人のイエズス会潜伏宣教師が東北に入りこの地も訪れた。記録がはっきり残っているのはイエズス会が指導した『サンタマリアの組』で有ったと言う。記録によれば、お互いの信仰を深める互助会組織で、洗礼を授け、死者が出れば葬り、結婚の司式をし、貧者を助けた。神父はこの組織を作り、繋がりを持ち、組織の親を育てることによって共同体を維持した。組織の親は村々を回り求道者を育て洗礼を授けた。信者は毎週一度集まりロザリオを唱え霊的読書、分ち合いをして互いの信仰を強めあった。総親の甘糟右衛門は指導者であった。潜伏して巡回して来る神父に甘糟右衛門は宿を提供し、信者の名簿を作った。

米沢殉教者の特色は、今から約400年前迫害の中で潜伏宣教師によるキリストの教えを純粋に受け入れ協力し、信徒使徒職の役目を信者の手で守っていたことである。殉教の際、役人によって家から刑場に行き

斬首された。

北山原処刑場跡の殉教地で、感慨ひとしおの中で祈りを捧げた後、米沢教会で野間神父様司式のミサに与り、米沢教会マリア会の方々とお茶を戴きながら分かちあった。そして、米沢藩主の廟、歴史、林泉寺の甘糟家の墓所などを見学し、米沢を後にした。9月30日は、東京着後、岩手県水沢で捕えられ江戸送りとなったペトロカスイ岐部神父の、拷問、穴吊り、死が執行された牢屋、江戸小伝馬町処刑場跡『現在の十思公園』で、私達は、[井上筑後の守の記した岐部ペイトロは転び申さず候。岐部殺し申し候。岐部相果て候]の殉教を偲んだ。



今は小さな公園で当時この処刑場で使っていた大きな鐘の下で、岐部神父の強健な意志と視野の広い世界観。海難を乗り越えて迫害さなかの祖国で潜伏し、一貫してキリストの霊性を証した岐部神父の信念を想い、国際人としても日本の誇りであることを私達は学んだ。

築地教会でミサに与った後川口神父様より江戸の殉教についてお話しをお聴きした。10月1日は、1623年12月4日に宣教師、原主水など50人が火刑された札の辻をバスで通過し、三田ビルの西側の階段上にある元和の殉教記念碑を訪れた。

高輪教会でご聖体訪問、イグナチオ教会でヴィタリ神父様司式のミサに与り、日本キリシタン史専門の尾原悟神父様の講演をお聴きし貴重なご研究のキリシタン時代の祈りの集成本を見せて頂いた。東京カテドラル、神田教会にご聖体を訪問殉教者への祈りをお捧げした。

殉教者の深い霊性と信仰の証を学ぶ秋の爽やかな巡礼の旅であった。

パレスチナ便り

エルサレムより TM



私が住んでいるのはエルサレムのオリブ山の上です。

ここから見えるエルサレムの旧市街、モスクから聞こえてくるアザーン、教会の鐘の音、ユダヤ教徒がシャバットにはいるときのサイレンと宗教色タップリです。

ここから仕事先のイドナ村までは車で1時間掛かります。検問所を数箇所（少ないときは2箇所）通過し、村まで通います。

女性達が集まるセンターには3人のスタッフが8時半から2時まで毎日出勤しています。これは村の主婦だった女性達にとっては画期的なことでもその3人の女性達が給料を得ているということも。サラームのみんながバザーを通してみなさんに協力を得て、沢山のイドナ村の作品を販売、購買してくださっている収益が3人の女性達の給料にもなっています。

3人のスタッフは布地の買出し、裁断、刺繍や縫製の出来栄の確認から管理、訪問者の対応、注文の対応など、(注文が海外からの場合は箱詰めした作品を1時間かけてベツレヘムの運送社まで運びます。) 組合

を運営する殆どの仕事を担っています。

刺繍を担当する女性達、縫製を担当する女性達はそれぞれの仕事を自宅に持ち帰り、仕上げセンターにやってきます。組合の女性は51名。他のパレスチナの組合と比べると小さなグループですがデザインと色の組み合わせの良さや、縫製ではパレスチナでは一番の品質を誇っていると評判になりつつあります。

こうした女性達の活動、特に女性達が自信をつけて、仕事を楽しく喜んで続けることができているのもサラームを通して多くの方々から支援をいただいているからです。たくさんの感謝をしています。

11月9日は社会部の皆様がパレスチナ支援バザーをしてくださいます。いつもご協力くださり、ありがとうございます。

また、これからもどうぞよろしくお願い致します。



10月の運営委員会から

1. 12月12日(金)～14日(日)待降節黙想会について

- ・ ゆるしの秘跡を12月20日(土)15時～18時に行う。
- ・ 指導司祭・日程

12月12日(金) 野間神父様

- 10:00 ミサ(地下聖堂)
- ミサ後 講話①(マリアホール)
- 12:00 昼食
- 13:00 講話②(マリアホール)
- 14:00 解散

12月13日(土) 早副神父様

- 10:00 講話①(マリアホール)
- 12:00 昼食
- 13:00 講話②(マリアホール)
- 14:00 ミサ(地下聖堂)
- 15:00 解散

12月14日(日) 後藤神父様

- 9:30 ミサ(大聖堂)
- ミサ後 講話①(マリアホール)
- 12:00 昼食
- 13:00 講話②(マリアホール)
- 14:00 解散

- ・ 今回は弁当の注文はしません。昼食は各自でご用意ください。

2. カトリック会館2F 執務室カーペット張替えについて

- ・ 202号室、204号室のカーペットの汚れが目立つが、クリーニングではきれいにならないので、張り替える。

3. 11月30日(日)初聖体祝賀会について

- ・ 初聖体は教会にとって大きな喜びであり、教会行事として祝うこととする。
- ・ 今回は、滞日フィリピン人方々の子どもが11名中9名と多いため、ミサの時間を10:00とし、一緒にお祝いをする。ミサの歌は日本語と外国語の両方とする。

4. 列福式当日のミサ

- ・ 11月23日(日)のミサ、市内は幟と祇園のみ。
- ・ ミサの時間→8:00、9:30、14:30 イエズス会の司祭が担当。

5. クリスマス実行委員会より

- ・ ミサのオルガン奏者→24日18:00 戸沢さん、20:00 吉年さん、24:00 ギターとキーボードのみ、25日10:00 瀬川さん
- ・ ミサの様子をモニターで流す。モニターを地下聖堂に設置。
- ・ 役割分担→受付:マリア会6名、会場案内係:8名、地下聖堂案内係:2名。案内係の事前説明会を実施する。

編集後記



私は通勤時に、幼稚園の子どもたちがマリア様に手を合わせている姿を見かけます。

慌しい朝、ふと神様に感謝をと気づかされるひと時です。

400年前に、命と引換えに守られた信仰を子供たちに伝えていくことが、共同体の中で生きる私たちの大きな役目だと感じています。(か)

